

第120回プラスワン例会報告(30周年記念例会)

吉田智紀

YOSHIDA Tomoki

技術士(機械部門)



1. 概要

プラスワンは今年発足 30 周年を迎え、下のプログラムで記念例会を実施した。例会には 55 名、懇親会は 44 名の参加があり、いつもの 2 から 3 倍の参加者を集め、盛大に開催することができた。

国本部とは同本部設立当初より、継続して交流・協力関係を築いている。プラスワンは技術士の研さん・交流の場の提供という使命を持って、協力関係を構築しており、いずれの団体からも謝意が伝え

2. 開会あいさつ 祝辞

挨拶は、プラスワン現幹事の吉田が行った。祝辞は(公社)日本技術士会四国本部は栗本事務局長に、香川県技術士会は加藤会長からいただいた。香川県技術士会とはプラスワン発足当初より、また四

表-1 プログラム

実施日：令和 8 年 5 月 23 日

場所：サンポートホール高松 61 会議室

1. 報告(13:30~13:50)

開会あいさつ 祝辞

2. 会員による活動報告(13:50~15:40)

研究会報告「西嶋八兵衛」

青葉工業(株) 丸山正氏

研究会報告「香東川」

(株) マスダコンサルタント 竹内克宜氏

大人も子どもも育つ！岡山県技術士若手の会
による理科教室

(株)エイチ・エス・ピー 小野朋子氏

阿南高専への出前講座

(株)エフ設計コンサルタント 天野大氏

出前授業・理科教室報告

(株)石垣 吉田智紀氏

3. 記念講演(15:50~16:50)

「高専スタートアップによる地域創生」

香川高等専門学校 校長 荒木信夫氏

4. 懇親会(17:30~19:30)

ミケイラ (高松市サンポート 8-40)



写真-1 開会あいさつ 祝辞

られた。また加藤会長は所用のためビデオレターによる挨拶であったが、映像・音声とも問題なく上映でき、事務局としてはほっとした。

3. 会員による活動報告

プラスワンは、この10年間、勉強会と称して小グループでの研究活動を行っていた。ここでは、その活動報告と近県の技術士の活動、それと出前授業・理科教室の報告を行った。

3.1.研究会報告「西嶋八兵衛」

西嶋八兵衛は江戸時代初期の人で、満濃池の修築、香東川の本化など香川県の発展に大きく寄与した人である。本研究会では功績をたどるだけでなく、そこから思いをはせて銭形砂絵・栗林公園の築造も八兵衛の功績ではないかと発信している。また各種講演・絵本冊子の作成など功績を広く伝える活動についても報告があった。

3.2.研究会報告「香東川」

本活動は香東川を「ブラタモリ」と称して、フィールドワークに重点を置きつつ、香東川の付け替えについて考察したものである。付け替えの痕跡をたどり、土木工学的視点、産業史的考察など織り交ぜて、香東川の付け替えを検証している。最後は付け替えが高松にとって良かったのか、問題提起する形でまとめている。土木工学と地域史の両面からの考察が印象的であった。

3.3.大人も子どもも育つ！岡山県技術士若手の会に



写真-3 各種活動報告



写真-2 研究会報告

による理科教室

本発表は、岡山県技術士会にて実施している理科教室の紹介である。プラスワンで実施している理科教室の参考にするため、発表をお願いした。参加する技術士が多く、一定の費用をかけて運営されており、充実した活動であることがうかがえた。ネタについては参考になる点がいくつかあった。準備の仕方も参考にしたい。

3.4.阿南高専への出前講座

徳島県技術士会の出前授業は、阿南高専の建設システム工学科の3年と4年生に対して実施している。そのため、1年間の学生の成長を実感できるのが大きな特徴である。また土木系にフォーカスしており技術士の専門との親和性も高い。香川高専での取組とは異なる特色があり、新たな知見を得ることができた。

3.5. 出前授業・理科教室報告

最後にプラスワンの出前授業・理科教室の取り組みの紹介。出前授業は年々参加者が増えており、ありがたいが、女性技術者の参加が少ないのが問題である。近年、高専の女子学生の増加は著しく、技術士のほうが対応できていない。今後、女性技術者の参加を促していきたい。また最近始めた理科教室についても紹介した。

4. 記念講演

記念講演は、近年出前授業でお世話になっている、香川高専の校長先生にお願いした。荒木先生は、高専発のスタートアップ育成に熱心で、その取り組みについて紹介をお願いした。



写真-4 記念講演

近年、日本の競争力低下が著しく、その要因が日本型の社会・組織にあるとして、それを変えていくためのアントレプレナーシップ教育・スタートアップ企業のマインドの定着などに取り組んでいる。講演では、高専教育がスタートアップ創出に適した特性を有していることについて紹介があった。高専の学生には自ら手を動かしてやってみるという姿勢があり、それが重要であると強調していた。また東京ではなく地域発にこだわる特徴も高専発スタートアップの特徴である。

地域の活性化に、高専の学生のパワーの重要性を感じることができた。

5. 懇親会

懇親会は高松の代表的なレストランの一つである、ミケイラを貸し切り実施した。また技術士の豊嶋さんをお願いして、三豊の市民オーケストラ、瀬

戸風ウィンドオーケストラの演奏付きとした。

ウェルカムドリンク・乾杯の後、早速演奏となった。定番の演目から昭和歌謡まで、およそ 30 分、圧倒的な演奏と楽しめた。およそ 30 名の編成で、職業も会社員・教師・学生と様々で、練習するのも大変だとは思いますが、息の合った演奏で感動的であった。約 30 名による迫力ある演奏に、会場は大いに盛り上がった。定期演奏・各種イベントへの出演もあるので、機会があれば実際に聞いてみていただきたい。



写真-5 懇親会

また歓談途中には、プラスワンの活動の記録をスライドショーとして上映した。ただ今回は、演奏とレストランの雰囲気と食事が素晴らしく、スライドへの注目度は相対的に低かった。

時間いっぱい歓談し、最後はいつも幹事を助けていただいている友安さんに中締めをお願いし、お開きとした。

6. お宝紹介ほか

ほかに、これまでの活動でプラスワンのお宝と呼ばれるものも会場に展示し、参加者に見てもらった。

出前授業で配布した冊子、学生の質問メモ・アンケートなどあまり時間は取れなかったが、見てもらうことができたと思う。また、本会発起人の一人で前幹事の本條さんからは参加者全員に、活動の記録(前半)が配布され、活動記録の継承についても期待が寄せられていた。ほかに本條さんからサプライズのプレゼントもあった。



写真-6 お宝・プレゼント

7. おわりに

多くの関係者の協力により、プラスワン 30 周年記念例会を無事開催することができた。参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後もプラスワンは技術士相互の研さんと交流の場として活

動を継続し、新たな企画にも積極的に取り組んでいきたい。特に新しい勉強会の立ち上げも課題ではある。ほかに、気軽に参加できる楽しいイベントにもチャレンジしたい。

最後に、記念例会のために立ち上げた実行委員会の皆さん、瀬戸風ウィンドオーケストラの皆様、そして当日参加していただいた皆様全員に、改めて感謝申し上げます。

これからもプラスワンの活動にご支援をお願いしたい。

以上



写真-7 お疲れさまでした